## Q&A

**Q いつまで治療を続ける必要がありますか？**

**A** 乾性角結膜炎は免疫機能の異常によって起こる病気であり、生涯付き合ってゆく必要があります。オプティミューン眼軟膏はこの免疫機能の異常を押さえて症状を改善しますので、殆どの場合は、一生涯治療を続ける必要があります。

**Q 症状が良くなっていることの確認はどうすればいいの？**

**A** かかりつけの動物病院で定期的な検査を受けましょう。動物病院では、涙の量を検査（STT 試験）したり、眼の炎症がどの程度改善しているかを見てくれます。乾性角結膜炎と上手く付き合ってゆくことが大切です。

## STT とは

ワンちゃんの涙の量を測る試験で、1 分間試験紙を眼に入れて（写真参照）涙の量を測定します。涙が少ないと乾性角結膜炎（ドライアイ）と判断されます。
目やにがあったり、乾性角結膜炎の疑いがある場合は、この試験を受けることをお勧めします。

Optimmune™
Take a closer look

重要 必ずお読みください。ワンちゃんの病気に関する説明がのっています。

## ♥ ペットオーナーの皆様へ ♥

乾性角結膜炎（ドライアイ）は継続的な治療を続ける必要のある病気です。オプティミューン眼軟膏の使用で症状が良くなっても途中で治療を中止することは、また症状が以前の状態に戻ってしまう可能性があります。根気良く治療を続け「愛犬に潤いのまなざしを」保ちましょう！

# 愛犬に潤いのまなざしを

乾性角結膜炎（ドライアイ）治療薬
**オプティミューン® 眼軟膏**

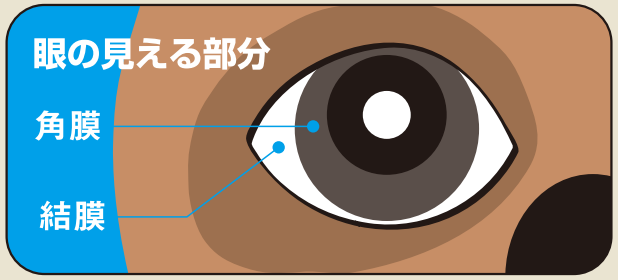
**乾性角結膜炎とオプティミューン® 眼軟膏に関するご相談は当院まで**

130000（M）

MSD Animal Health

# 乾性角結膜炎とは？

**涙の分泌量が減少し、眼の見える部分（下図参照）に炎症を起こす病気で、治療せずに放置すると失明することもある怖い病気です。**
**原因としては、さまざまなものがありますが、最も多いのは免疫機能の異常によるものです。免疫機能がなんらかの原因によって異常をきたし、自分の涙腺を異物と認識し、攻撃、破壊してしまっている状態が乾性角結膜炎です。**




## どうして涙は大切なのでしょう？

### 涙は・・・

- 瞬きをしやすくする
- ごみを洗い流す
- 目に栄養や酸素を運ぶ
- 細菌による感染を予防する

などの重要な役割があります。
これが十分に出なくなると、目が不健康な状態に!

### 涙が出ない状態を放っておくと・・・

- 結膜炎
- 目のかゆみ
- 目の乾きから輝きが無くなる
- 目やにが増える
- 最悪の場合、失明してしまう可能性もあります!

# オプティミューンは、乾性角結膜炎の治療薬です。

## 〈使い方〉

1日2回（12時間ごと）に片眼あたり、チューブから約1cmを眼に投与します。目薬をさす要領でワンちゃんの顔を上に向けます。直接眼の表面に塗布します。
又は、下まぶたをやさしく下方向に引っ張り、まぶたの内側にしぼり出してください。
チューブの先端が眼に直接触れて傷つけないよう、注意しましょう。
使用に際しては、獣医師の指示に従ってください。

## 〈使用上の注意点〉

### 投与上の注意

お薬の使う量のばらつきを無くすため、毎日同じ人が同じ時刻に投与することをお勧めします。
両眼に投与する場合は、必ず「状態の良い眼」から先に投与してください。
お薬を扱う前、後には必ず手を洗いましょう。手に薬がつかない様注意し、ついた場合はすぐに石鹸を使用して洗い流してください。

### 保管上の注意

室温で保管してください。夏場はお薬が軟らかくなり、冬場は固くなることがありますが、異常ではありません。温度によっては液体のように軟らかくなることもありますが、品質には問題ありません。
固くて使用しにくい場合は手のひらで温めると軟らかくなり使い易くなります。軟らかすぎる場合には、冷蔵庫で少し冷やしてください（凍結注意）。
冷たいままで使用するとワンちゃんが驚いてしまいますので注意しましょう。

### 使用中の注意

お薬を使用していて何らかの異常があった場合（症状が急に悪くなるなど）には、かかりつけの動物病院に相談してください。
症状が良くなった場合、改善した場合などでも先生の指示なしにお薬の量を変えたり、お薬の使用を止めたりしてはいけません。病気の症状が悪化してしまう恐れがあります。